

<司令官ケネス・メイナー大佐の2020年11月1日のビデオメッセージ>

今週の祈りのテーマは「悔い改め」です。旧約聖書のダニエル書に登場するペルシャのダレイオス王は12人の参議官から助言を受けていました。伝説によると、参議官の一人が王を裏切り、王宮の秘密を外に漏らしました。王は参議官の一人一人に忠誠心を問いましたが、秘密は何者かによって外に漏れ続けました。そこで王は参議官たちを洞穴の前に立たせ、「今晚、天使が来て裏切り者の背中に印を付けるだろう」と言い、彼らを洞穴に閉じ込めました。翌朝、王は参議官たちを洞穴から出し、一人ずつ背中を向けさせました。5人目の参議官が背を向けた時、王は「裏切り者はお前だ!」と言いました。彼の背中には黒い印が付いていました。彼は一晩中壁に背中を付けて立っていましたが、その洞穴は炭鉱だったので、石炭で背中が黒くなってしまったのです。神は、わたしたちに付いている黒い印を洗い清めることがおできになる方です。ヨハネの手紙一第1章に「神が光の中におられるように、わたしたちが光の中を歩むなら、互いに交わりを持ち、御子イエスの血によってあらゆる罪から清められます」「自分の罪を公に言い表すなら、神は真実で正しい方ですから、罪を赦し、あらゆる不義からわたしたちを清めてくださいます」とあります。この御言葉はクリスチャンに向けて書かれたものです。クリスチャンが罪を悔い改めるのは、二度目に救われるためではありません。それは、一日の歩みを振り返り、神様の前で謝ることです。神が光の中におられるように、わたしたちも光の中を歩むなら、わたしたちは本当に真実で静穏な、平和に満ちた交わりを持つことができます。失敗してしまったとき、神様の前に出て『ごめんなさい』と謝りましょう。罪を悔い改めるとき、神はわたしたちを赦してくださいます。赦しには犠牲が伴いますが、その犠牲は神が十字架で支払ってくださいました。先ほどのダレイオス王の参議官ですが、彼は心に罪悪感を持っていたので、夜の間、横になって眠ることができず、ずっと立っていたのです。わたしたちは神様に対して何も良心の呵責が無い状態でいたいものです。わたしたちは自分の言葉や行いで周囲の人を傷つけてしまうことがあります。だからこそ、わたしたちは悔い改めて、自分の言動が神様の御心に沿うものとなるようにする必要があります。悔い改めによって、わたしたちは自分の隠れた罪から解放されることができます。心に罪の闇を抱えて恐れながら生きる必要はありません。悔い改めるなら、神は真実な方ですから、わたしたちの罪を清めてくださいます。クリスチャンにとって悔い改めは、呼吸をするように自然なことです。悔い改めるとき、わたしたちは自分の罪深さに気づくと共に、イエス様が払ってくださった犠牲の大きさを感じて、もう罪を犯さないようにしようと思えることができます。